高次脳機能障害の主な症状と対応例

高次脳機能障害として見られる主な症状と日常生活での対応方法について、ご紹介します。

注意障害

じっくりと仕事に集中できないなどの注意の持続困難、作業が始まると他の人の声かけに適切に反応できないといった注意の分配困難などの障害。

☐ 仕事に集中出来ない　☐ すぐに飽きる・気が散る
☐ 火を消し忘れる　☐ ミスが多い

対応例
・注意を維持できる時間を決め、その範囲内で作業を終える。
・休息を十分にとる。　・作業はできるだけ静かな場所を設定する。
・危険な場面に遭遇しないように環境に配慮する。

記憶障害

新しいことの記憶が困難、最近のことが思い出せない、約束ができないなどの障害。

☐ 昨日のことを覚えていない　☐ 約束を忘れる　☐ 新しいことを記憶できない

対応例
・メモやスケジュール帳などの代償手段を取り入れ、何度も繰り返し練習する。
・カレンダーなどに予定を書き入れる習慣をつける。

失語症

話す、聞いて理解する、書く、読むことの障害。

☐ 思うように言葉が出ない　☐ 話が理解できない　☐ 字の読み方を忘れる

対応例
・ゆっくり、わかりやすく、具体的に話す。
・長い文を避け、短い言葉を使う。　・ジェスチャーやメモを利用する。

失認症

見ているもの、聞いているもの、触っているものが分からなくなる障害。

☐ 見えているものがわからない　☐ 聞こえている音が何かわからない

対応例
・見て理解できない場合、触れてみたり、音を聞くなど他の感覚を使用する。
・聞いて理解できない場合、筆談や手ぶり、ジェスチャーなどを用いる。

遂行機能障害

日常生活や仕事の内容を計画して実行することの障害。

☐ 整理整頓ができない　☐ 計画が立てられない
☐ うまく修正できない　☐ 手際よく作業ができない

対応例
・仕事の内容を順序立てて掲示する。
・作業を単純化し、一つ一つをこなして次に進むようにする。

失行症

麻痺はないのに、意図した動作や指示された動作ができなくなる障害。

☐ 慣れていた道具の使い方が分からない
☐ お茶の入れ方が分からない

対応例
・繰り返し練習を行う。
・何ができて、何が困難かを判断し、複雑な動作の場合には簡素化する。
・一連の動作の中で、できない動作のみを手助けしたり、促したりする。

半側空間無視

目の前の空間の半分（多くは左側）に注意が向かない障害。

☐ 食卓の左半分を残す　☐ 車椅子の左側がぶつかる　☐ 右に寄って歩いてしまう

対応例
・食卓では、全体を見渡す習慣をつける。
・車椅子のブレーキをかける際、動作を言葉で発しながら行うように習慣づける。
・左側は見落としやすい(注意が足りない）ことを自覚するように促す。

地誌的障害

地理や場所がわからなくなる障害。

☐ 迷子になりやすい　☐ 自分の家の地図がわからない

対応例
・一人で行動できる範囲を自覚する。
・道に迷った時の対処法を話し合っておく、連絡先を書いたカードや電話番号を身につける。
・家庭内では、主だった場所へ文字や手がかりになる目印を本人の目線の高さに設置する。

社会的行動障害

自分の行動や感情をコントロールすることの障害。

☐ やる気がない　☐ 引きこもりがち　☐ 怒りやすい　☐ 衝動的に行動してしまう
☐ 暴言・暴力　☐ 感情をコントロールできない　☐ 子供っぽい

対応例
・突然の変化に対応しにくいことを周囲が理解する。
・感情をコントロールできず興奮している場合は、場所を変える、あるいは話題を変えてみる。
・本人の意思や役割を尊重する。
・本人の好きなこと、できることを積極的に取り入れ、成功体験を増やすようにする。